へてん、いとうしろへたしとおほせらるれば、かしこまりて御前にも出ず、いぬばかり出て、たきぐちなどして追ひつかはしつ、

〔更科日記〕おなじおりなく成玉ひし侍從大納言○藤原行成の御むすめの書を見つゝ、すゞろにあはれ成に、五月ばかり、夜ふくるまで、物がたりをよみておきゐたれば、きつらんかたもみえぬに、ねこのいとながうないたるを、おどろきて見れば、いみじうおかしげなる猫あり、いづくよりきつるねこぞと見るに、あねなる人、あなかま人にきかすな、いとおかしげなる猫なり、かはんとあるに、いみじう人なれつゝ、かたはらに打ふしたり、尋ぬる人やはと、是をかくしてかふに、すべて下すのあたりにもよらず、つとまへのみありて、ものもきたなげなるは、ほかざまにかほをむけてくはず、あねおとゝの中につとまとはれて、おかしがりらうたがるほどに、あねのなやむ事あるに、物さわがしくて、此ねこをきたおもてにのみあらせてよばねば、かしがましくなきのゝしれども、なをさるにてこそはとおもひてあるに、わづらふあねおどろきて、いづら猫はこちゐてことあるを、などゝとへば、夢に此ねこのかたはらにきて、おのれはじゝう大納言殿の御むすめのかくなりたる也、さるべきえんのいさゝかありて、この中の君のすゞろにあはれとおもひ出たまへば、たゞしばしこゝにあるを、此ごろ下すのなかにありていみじうわびしきことゝいひて、いみじうなくさまは、あでにおかしげなる人と見えて、打おどろきたれば、此ねこの聲にて有つるが、いみじく哀成とかたり玉ふを聞に、いみじくあはれ也、そののちは此ねこを北面にもいださず、おもひかしづく、たゞひとりゐたる所に、此ねこがむかひゐたれば、かいなでつゝ、侍從大納言の姫君のおはするな、大納言殿にしらせ奉らばやといひかくれば、かほをうちまもりつゝ、なかようなくも、心のおもひなし、めのうちつけに、れいのねこにはあらず、きゝしりがほにあはれや、○中略そのかへる年○治安三年四月の夜中ばかりに火のことありて、大納言殿の姫君と思かしづ